

尼崎の環境—平成29年度版—(概要版)

■表記の説明



…改善傾向・目標値を達成/取組が大きに進んだ



…横ばい/取組が進んだ



…悪化傾向/取組が進まなかった

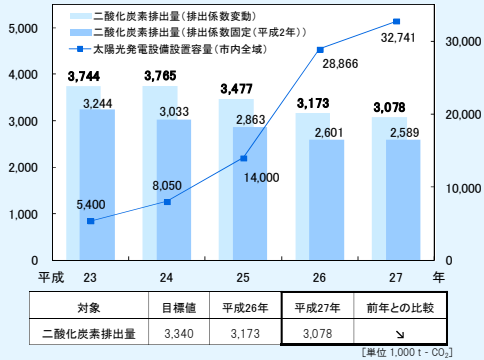


…計画目標を達成した

目標1 低炭素社会の形成

■現状

二酸化炭素排出量・太陽光発電設備設置容量の推移
(1,000 t-CO₂) (kW)



■平成28年度の主な取組・成果

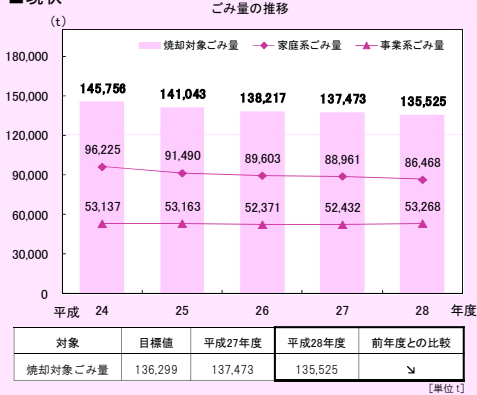
- 二酸化炭素排出量は引き続き減少傾向にあり、平成27年度の推計値(速報値)は計画目標を達成しました。なお、平成27年度の市の取組による削減量は24,403 t-CO₂(再エネ関係:19,431 t-CO₂、省エネ関係:4,972 t-CO₂)でした。
- 自動車・住宅充給電(V2H)システムの導入に対する補助やセミナーを実施しました。
- 人と環境にやさしく、まちの活力を支える交通環境を実現するための「尼崎市地域交通計画」を策定しました。また、環境にやさしい移動手段である自転車の魅力を活かしたまちづくりを推進していくために「尼崎市自転車のまちづくり推進条例」を制定しました。

■評価と今後の取組の方向性

- 二酸化炭素排出量は減少傾向にあることから、現状の取組を基本としながら、部門ごとの課題に取り組んでいきます。
- 高止まりしている民生業務部門への取組として水素エネルギーを活用した業務・産業用燃料電池の導入に対する補助を検討します。
- 「尼崎市地域交通計画」の施策を推進していくために、バスの利用実態を調査し、バスネットワークの改編を検討します。
- 自転車のまちづくりを推進するための計画の策定を進め、コミュニティサイクルの社会実験などを検討します。

目標2 循環型社会の形成

■現状



■平成28年度の主な取組・成果

- 焼却対象ごみ量は減少傾向にあり、平成28年度実績では計画目標を初めて達成しました。
- 小学生向けのごみに関する啓発である「子どもごみマスター制度」の運用を民間団体に委託することにより、学校への個別の働きかけが行われ、未実施校の減少やごみマスターの称号を獲得する児童が増加しました。
- 食品ロス削減を進めるために事業者への広報やレアメタル等のリサイクルに取り組まれました。

■評価と今後の取組の方向性

- 焼却対象ごみ量は、市民・事業者の様々な取組や人口の減少などにより減少傾向にあることから、現状の取組を基本としながら、更なる改善を進めていきます。
- 市民が排出するごみの減量・リサイクルを推進していくため、「収集日カレンダー」や「出し忘れ防止アラート」などを搭載した「ごみ分別アプリ」の配信を検討していきます。
- 食品ロスの削減を推進するために、食品ロスの排出状況の調査を行うとともに、削減に向けた制度や更なる啓発方法などについて検討していきます。

目標3 安全で快適な生活環境の保全

■現状

環境基準の達成状況

対象	目標値	平成27年度	平成28年度	前年度との比較
大気	100	89.2	95.4	↗
水質(河川・海域)	100	97.6	97.1	↘
水質(地下水)	100	99.0	99.0	→
騒音(自動車)	100	97.9	98.2	↗
騒音(航空機)	100	100	100	→
騒音(新幹線)	100	83.3	91.7	↗
ダイオキシン	100	100	100	→

[単位:%]

■平成28年度の主な取組・成果

- 微小粒子状物質(PM2.5)については、初めて市内の全測定局で環境基準を達成しました。
- 過去に改善命令を出した事業者を含め、継続的に立入調査などにより監視・指導をしており、行政処分となる違反はありませんでした。
- 安定器などのPCB廃棄物の処理を推進していくために、民間事業者のPCB廃棄物の保管状況調査を進めています。
- 水銀による環境汚染を防止するため、環境省のモデル事業に参画し、体温計等の使用済み水銀添加製製品の回収を行いました。
- 石綿による健康被害者に対する救済給付制度の充実や石綿健康被害の未然防止に向けた取組の支援について国に要望しました。

■評価と今後の取組の方向性

- 環境基準については概ね達成できている状況が続いているため、現状の取組を基本としながら更なる改善を進めていきます。
- 平成29年度には大気汚染防止法と土壌汚染対策法の改正が予定されているため、対象となる事業者への周知の徹底を図ります。

目標4 多様な生き物の生息(生育)環境の保全

■現状

生物の生息・生息環境と市民の興味・関心の状況

対象	平成27年度	平成28年度	前年度との比較	
緑の面積	451.7 ha	448.7 ha	↘	
市有施設におけるフラクレスト種(兵庫県)の利用	0件	0件	→	
民有施設におけるフラクレスト種(兵庫県)の利用	0件	0件	→	
環境基準の達成状況	BOD	100%	100%	→
	DO	100%	88.9%	↘
	Zn	100%	100%	→
	NP	100%	100%	→
LAS	100%	100%	→	
生き物に関する講座・イベントの実施回数	—	26回	—	
身近な自然・生き物を大切にしている市民の割合	64.5%	66.0%	↗	
市民農園の面積	19,672 ha	20,371 ha	↗	

■平成28年度の主な取組・成果

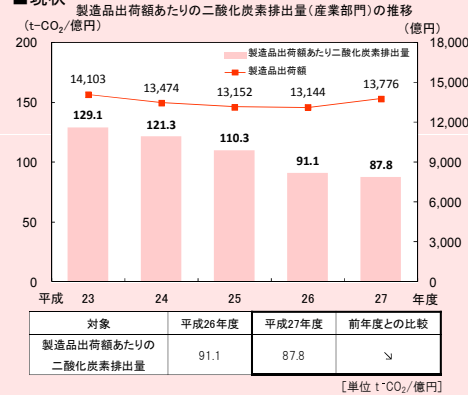
- 市役所内の生物多様性の保全・創出に関する考え方を整理し、ガイドラインとしてとりまとめ、取組の進捗状況を把握していくための指標の検討を行いました。
- あまがさき環境オープンカレッジで、本市の生物多様性を学べる連続講座を実施しました。
- 市内の身近な自然を知ってもらうために、市制100周年を記念して、過去27年度分の「あまがさきの身近な自然写真展」の入選作品を整理・編集し、写真集を発行しました。
- 尼崎21世紀の森づくりを進めていくために、新たなニーズなどを踏まえ「尼崎21世紀の森づくり行動計画(兵庫県)」を改訂しました。さらに、本市臨海部を舞台にしたハーフマラソン大会を開催し、尼崎の森中央緑地などの魅力を広く内外に発信しました。

■評価と今後の取組の方向性

- 市民の生物多様性への理解を深めていくために、生き物の同定など専門的な知識を学べるような講座の実施を検討していきます。
- 市内産野菜の生産出荷の支援や市内農業をPRしていくために、農地や農業経営の実情・課題を把握するためのアンケートと実施し、農業振興策の見直しについて検討していきます。

目標5 環境と経済の共生

■現状



■平成28年度の主な取組・成果

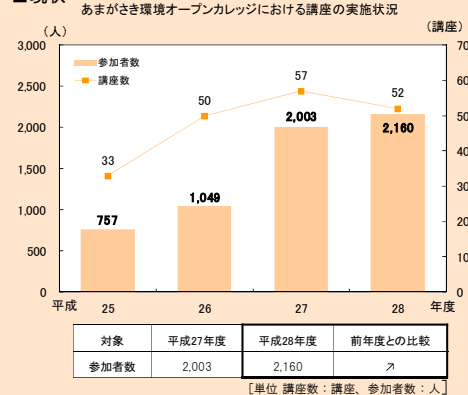
- 尼崎版グリーンニューディールの成果は、二酸化炭素削減量が412.8 t、経済波及効果が6億8千万円でした。
- あまがさき環境オープンカレッジで、環境に取り組む市内の工場見学としてエコ社会見学ツアーを実施しました。
- 「ECO未来都市・尼崎」宣言団体によるシンポジウムにおいて、環境と産業が共生する取組として、「エコミュージアム構想」が提言されました。

■評価と今後の取組の方向性

- 製造品出荷額あたりの二酸化炭素排出量は減少傾向にあることから、現状の取組を基本としながら、取組を進めていきます。
- 省エネ設備の導入にあたっては、エネルギーコストの削減により企業の競争力に繋げていくために、訪問活動などにより事業所のニーズの把握につとめ、新たな施策の構築について検討していきます。

目標6 環境意識の向上・行動の輪の拡大

■現状



■平成28年度の主な取組・成果

- あまがさき環境オープンカレッジでは子どもから大人まで幅広い層を対象とした環境に関する講座やイベントが行われており、平成27年度に比べ新たに22団体と連携することができました。
- 環境問題についてより深く学ぶために、公営研究の第一人者を講師として招くほか、本市をフィールドとして生物多様性を学ぶための講座を開催しました。

■評価と今後の取組の方向性

- あまがさき環境オープンカレッジにおける講座への参加者数については、増加傾向にあるため、引き続き、あまがさき環境オープンカレッジを通じて、尼崎市環境基本計画の施策に沿った環境啓発・学習を進めていきます。自転車施策の推進やスマートハウスの普及を進めていくための講座の開催を検討していきます。